Un jour アンジュール

青森市男女共同参画情報紙

―性別・世代・時代を超えて―

アンジュールはフランス語で「ある日」という意味。一人ひとりの「ある日」を紡いでいきたいという願いを込めた情報紙です。

女性だって 男性だって

タクシードライバー　中村彩子さん

イクメン・カジメン代表パパ

中央保育園　男性保育士　鈴木馨さん

マロミ化粧品メイクアップ師
鳴海吉英さん

4ｔトラックで配送する三協運輸
トラガール　千葉さん

「男女共同参画都市」青森宣言

私は私を大切に思うのと同じ重さで
あなたを大切に思う

性別を超え
世代を超え
時代を超え
人と協調し　人を信頼できる
誇り高い人間でありたい

すべての人の自立と平等をめざして
青森はここに「男女共同参画都市」を宣言します

平成８年 10 月 22 日　青森市

2014.11　No.45

男性も女性も性別に関わらず、「自分のやりたい仕事（こと）」、「自分の能力を活かせる仕事（こと）」ができるのは大切です。自分らしく頑張っている皆さんに表紙を飾っていただきました。

特　集

男女共同参画社会の実現には、「ワーク・ライフ・バランス」の取組みがとても重要です。そのスタイルは人それぞれ違いますが、今号の特集では、『結婚後農業の楽しさにはまった若手農業者』、『女性職員が７割を占める百貨店の男性管理職』、『離職後サークル活動で健康を取り戻した女性』の３人の皆さんにお話しをお聞きしました。

あなたも、ご自身の「ワーク・ライフ・バランス」について、考えてみませんか。

男女共同参画都市あおもり

ニュースの目　2040年には 896市町村が消滅!?

有識者らでつくる政策発信組織「日本創成会議」は、2040年までに、全国の計 896 自治体で、20～39 歳の女性の数が半減し、急激な人口減少で自治体機能の存続が難しくなる「消滅可能性都市」となるとの人口推定結果を発表した。

消滅可能性都市が県内の市町村に占める割合が 8 割を越えたのは、全国で青森、岩手、秋田、山形と島根県。東北地方に集中している点について、「東京への人口移動は他地域と同様だが、東北の出生率の低下が西日本より進んでいるため」と分析し、大都市に若者が吸い込まれ地方の人口減が加速しているとも指摘。

また、総務省がまとめた人口推計（4 月 1 日時点）によると、14 歳以下の子どもの数は、1,633 万人となり、33 年連続で減少。総人口に占める割合は 12.8%。（平成 25 年 10 月 10 日時点）県別では、割合が最も高かったのは、沖縄の 17.6%、最低は秋田の 10.9%、青森は 11.9%で下から５番目。

地方での暮らしのメリット、出生率を引き上げるための対策など、いろいろな視点から考えていかなければ。

何年か後に、子どもや若い世代の姿も見えなくなる世の中なんて・・・。

アンジュール VIEW（びゅう）

◆セクハラやじと無意識目線◆

今年の６月に発生した「都議会やじ」問題。報道としてはひとまずは収束したようだが「問題の本質」として収束したのだろうか。社会では「やじの犯人捜し」が報道の中心？になってしまったようで「女性問題としての社会的課題」はいつの間にか雲散霧消。今までも「女性問題」は、「ムード」として興味を持ってはもらえてきたが、「解決すべき課題」として受け止めてもらえていただろうか。私たちの男女共同参画活動を「女性たちの趣味活動」と捉えている根強い社会の無意識目線があるのではないだろうか。今回の「やじ騒動」は私たちにこの無意識目線を変えさせるためのより一層の活動・行動をとることを求めているのかも…。

（スタッフ）

◆土井たか子さんとその時代の男女共同参画◆

日本の憲政史上初めての女性の政党党首、そして女性初の衆議院議長であった土井さんが９月に死去された。そこで、「男女共同参画」の視点で土井さんの時代を巡ってみると…。昭和 44 年に国政初当選後、昭和 55 年には議会で「男女雇用差別」に関しての質問をしている。その頃には『私作る人、僕食べる人』という広告が流行っていて、ジェンダーそのものの時代であった。昭和 51 年に「国際婦人年」が提唱され、その後、女性の活躍推進を目指した「日本女性会議」が全国で始まり、青森市でも平成 14 年に開催。

さて、女性の進出・活躍は、社会での『女性』に対する目線を変えたでしょうか？　（スタッフ）

毎年 11 月 12 日から 11 月 25 日までは
『女性に対する暴力をなくす運動』期間

この運動は、女性に対する暴力の問題に関する取組みを一層強化するとともに、女性の人権尊重の意識啓発や教育の充実を図ることを目的としています。

市では、11 月 17 日から 21 日まで、市役所本庁舎 1Ｆ市民サロンで、「女性に対する暴力」についてのパネルの展示と、白いツリーを設置し運動の主旨に賛同した方に、パープルリボンをかけていただきました。

配偶者やパートナーなど、相手を大切に思うこと、お互いにとってよりよい関係とは何かを考えてみる機会となりました。

（市民サロンの様子）

＜発行＞
青森市市民生活部市民協働推進課
男女共同参画室
〒030-8555　青森市中央 1-22-5
☎　017(734)2296　FAX　017(734)5232
＜編集スタッフ＞
小野寺圭子（ネットワーク A･L）、川村あき子（NPO 法人ウィメンズネット青森）、木村亜希・中﨑良次（NPO 法人あおもり男女共同参画をすすめる会）

転載ご希望の場合はご連絡ください。

●女性の悩み相談カダール相談室●

パートナーからの暴力の悩み、自分自身の生き方や家庭のことでの相談など、女性相談員が応じます（面接相談・電話相談）。
ひとりで悩まず、ご相談ください。
【時間】休館日（毎月第２水曜日）を除く毎日 9：00～22：00
【場所】青森市男女共同参画プラザ「カダール」　※お話を傾聴するため、事前に相談日時等についてご相談ください。
【お問合せ】☎017-776-8858
（休館日を除く 9：30～21：00 受付）

・・・青森市の男女共同参画拠点施設・・・

＊青森市男女共同参画プラザ「カダール」
（青森市新町 1-3-7 アウガ５・６Ｆ）
【開館時間】　9：00～22：00
【休館日】　毎月第２水曜日
【電話】　017（776）8800
【FAX】　017（776）8828

＊青森市働く女性の家「アコール」
（青森市勝田 1-1-2）
【開館時間】　9：00～22：00
【休館日】　毎月第２日曜日
【電話/FAX】　017（723）1700

特集

あなたにとっての「ワーク・ライフ・バランス」は…

仕事や家庭生活、地域活動など、人にはそれぞれ違うライフスタイルがありますが、そのバランスが大切です。今号では、年代や家族構成、職場環境の違う3人のワーク・ライフ・バランスについて紹介します。

一戸　和彦さん　株式会社さくら野百貨店本社管理部人事課長

女性職員が多い百貨店という職場で、社員の採用・配置・人材育成などを担当しています。ワーク・ライフ・バランス推進も担当。そして自身のワーク・ライフ・バランスは？

（さくら野百貨店は平成 25 年 3 月 26 日に青森県の「あおもりワーク・ライフ・バランス推進企業」として認定。）

女性の活躍がさくら野を支えています

社員約 700 人のうち女性が 7 割。正社員のほか、パート・契約・派遣など多様な勤務形態ですが、採用や配置、社員教育など、コミュニケーションを大切に仕事しています。男女関係無く募集していますが男性の応募が少なく、百貨店は女性の職場のイメージが強いようです。これからは、少子高齢化など現状を考慮して採用活動をしなければと思っています。

ワーク・ライフ・バランスの取組みについて

情報紙などでは企業の取組みが紹介されていますが、同じようなシフト制の販売業者など、様々な業種の取組みについて情報提供してほしいです。

大切にしていること・心がけていること

仕事に関してですが、当社は仕入れから販売まで売り場担当者が営業管理しています。お客様の声をとり入れ喜んでもらえたときなど、やりがいを感じます。チームで仕事をし、目標を達成したときの充実感をみんなでわかちあうようにしています。

自分のワーク・ライフ・バランスの実践度は？

50 点です。家事はあまり協力的な方ではないかもしれません。もう少し家事をする等改善していかなければならないと感じています。ストレス解消は、リラックスできる子どもたちとの一緒の時間。あとは読書。上司に薦められた本などジャンルを問わずいろいろ読んで知見を広げています。

女性の働く環境について

女性の多い職場だからといって男性・女性を意識せず、ざっくばらんに仕事をしています。管理職になっても特に気構えることはありません。職場の女性社員たちに、企画などで力を発揮してもらってます。

取材を終えて

ワーク・ライフ・バランスの実践度の自己採点は３人とも意外と低かったことに驚きましたが、皆さんは家族を大切にしながら仕事や活動に打ち込み、健康で充足した日々を送っていました。家族と一緒にいる時間が少なくても、家族への思いやりや一緒の時間を大切にすることで、仕事や毎日の生活により一層充実を感じ、輝いた日々を過ごしています。皆さん自然体で生活しており、家族単位で相互協力しあえることや自分の熱中できる何かややりがいを持っていることも、ワーク・ライフ・バランスへ繋がると思いました。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）とは、一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、人生の各段階に応じて多様な生き方を選択・実現できることです。

ワーク・ライフ・バランスの実現は、仕事と子育てや介護などの家庭生活との両立に不可欠であり、職場等の理解がとても重要です。そして、その実践は労働環境の改善にとどまらず、企業活性化への効果などへ繋がる経営戦略として捉えられています。

市では、男性も女性も、家庭・地域・職場において互いに支え合い、利益と責任をわかちあう男女共同参画社会の実現に向け、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に努めています。

◆◆企業・事業者向け「ワーク・ライフ・バランス普及促進セミナー」を開催します◆◆

- 日時　平成 26 年 12 月 22 日（月）　午後３時 30 分～
- 場所　青森市男女共同参画プラザ「カダール」（アウガ５階）
- 講師　高山　貢さん（青森中央学院大学経営法学部教授）

川村　美紀さん　青森観光りんご園

夫の父が経営するりんご園で、栽培・管理・販売・加工などの六次産業化など、農業経営の発展を目指し、仕事と子育てを両立し頑張っています。4 世代同居の大家族の中、家族経営協定書を締結し、自分なりのワーク・ライフ・バランスを推進中。

平成25年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰の農林水産副大臣賞を受賞

仕事と子育て。わたしのライフ時間を紹介

結婚して始めた農業。花き栽培の他、りんご園の団体客の予約や案内、全国発送、ドライフルーツやベジタブルアレンジ作りなどの加工と注文販売するのが主な仕事です。スタッフとのミーティングなど午前中の仕事を終え、昼は家に戻り昼食の支度や片付け。公私を分けることが大切。午後は発送やイベントでの販売準備。基本的に夜は仕事をしませんが、マルシェ（若手農家の産直市）のミーティングが夜にあるときは、子どもたちを家族にお願いします。家族の協力体制ができているのが大家族の利点です。土･日のイベントへは子どもたちも連れて行き、手伝いながら仕事を理解してくれたらいいなと思います。

大切にしていること・心がけていること

家族と一緒にいる時間を大切にしています。そして、従業員にもなるべく家族と一緒の時間を過ごせるよう、休みを取れるような職場づくりを心がけています。もちろん怪我をしないで健康で働けることが第一です。

自分のワーク･ライフ･バランスの実践度は？

家庭では 20 点です。日曜参観日と私のイベントが重なって行けないとき、子どもに不満げに、「どうしてパパなの？」と言われると心が痛いです。仕事では、青年農業士の認定や農林水産副大臣賞の受賞など、これまでの取組みが認められて励みになっています。

女性の働く環境について

青森や八戸では、あまり問題ではないかもしれませんが、小さな町や村では子どもを預ける施設が十分でないため、働きたくても働けない女性がいます。保育園の充実など行政にもっと動いて欲しいと思います。

濱田　ツセさん　主 婦

55 歳で離職後、健康のためはじめた趣味のサークル活動が今では自身のワーク･ライフ･バランスになっています。
夫の営む店を手伝いながら、家事にサークル活動にと毎日奮闘中の活き活きライフ。

サークル活動が私のワーク・ライフ・バランスを支えています

離職後、重度の更年期障害になり治療生活へ。1 年ほどして知人の紹介でアコール（働く女性の家）のサークルに入り、運動を続け徐々に体力が回復。現在ではアコール利用者会の役員として、花壇作り・研修旅行・アコールフェスタなどでの活動が生活の中心になっています。身体を動かし仲間とおしゃべりするのは楽しく貴重な時間です。

大切にしていること・心がけていること

第一に夫に感謝です。私も欲張らずに、店の仕事に支障のないように行動しています。5 時に起床し、お店の掃除が日課。客商売なので丁寧・念入りを心がけています。それからいつでもきれいに装うこと、それと夫婦仲良く何でも話し合える関係を大切にしています。

自分のワーク・ライフ・バランスの実践度は？

自分自身に点数を付けられないけれど、今がいちばん充実していて楽しいと思っています。

女性の働く環境について

女性の登用が盛んに叫ばれていますが、それは世の中の人全部に関係したことなのかなと疑問に思います。40 代と 60 代では考えも違うし、家事・育児も男女でそれぞれの事情に合わせてやればいいのでは。もっと生活しやすい社会を目指す政策が必要だと思います。